

患者の状態を確認することでアドヒアランスの向上に寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者の状態を確認し、調剤方法の変更を提案することで、アドヒアランスの向上に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶ 歯肉癌後遺症に対して手術目的で入院された患者

【入院後開始薬剤】

タケキャブ錠 20mg 分 1 昼食後（粉砕指示）

※手術後しばらく経鼻胃管より薬剤を投与されており、
タケキャブ錠に粉砕指示が出されていた。



Cさん

経鼻胃管抜去後、服薬状況確認のため訪室

Cさん、こんにちは。お体の調子はいかがですか。

調子はいいですよ。鼻からの管もなくなって、お薬も口から普通に飲めるようになりました。

問題なく飲み込んでいるんですね、良かったです。
お薬で何か困っていることはないですか。

錠剤は問題なく飲めていますが、タケキャブ錠が粉になっていて
飲みにくいんです。

そうだったんですね。タケキャブ錠は管からお薬を入れるために
粉砕するように指示が出ておりました。
普通に飲めるようになりましたので、錠剤のまま処方してもら
うように、先生に伝えておきますね。



患者



薬剤師

その後、処方医に服薬状況を情報提供し、タケキャブ錠については粉砕指示を中止して
処方するように依頼した。錠剤に変更後、問題なく服用できていることを確認した。

患者の状態を確認し、調剤方法の変更を提案することで、アドヒアランスの向上に寄与
できた。

※タケキャブ錠の粉砕については、IFの粉砕後の安定性を参考とした。